

薬局からの「患者さんためのお薬情報！」

平成26年4月 No.12

宿題のない長期休暇だった春休みを満喫した子供たちも、ついに始まった新学期の変化に慣れるのに苦労しているようです。特に、朝の早起きが苦手で、朝から大騒動。朝起きれないのがわかっているながら、夜更かしをしようとして、また大騒動。その癖、休みの日の朝は、早起きができるようで、撮りためたテレビ番組を楽しそうにみています。厳しく躊躇することを心に誓う春となっています。（平野）

今月は、お薬の包装に関し、当院でもお渡しがあるヒート包装（もしくはヒートシール）、PTP 包装（もしくは PTP シート）とは何かについて、そして注意点についてお伝えしたいと思います。

ヒート包装とは、英語で Heat Seal と書き、熱で封をするという意味になり、主に銀色もしくは金色などのアルミ包装のものがあります。最近では、ヒート包装したお薬も少なくなっていますが、当院でも一部採用していますので、皆さんもお手にされたことがあるかもしれません。薬を取り出すときは、はさみを使って、もしくは手で破って開封することになりますが、はさみで開封する際、中の薬を傷つけてしまったり、手で破って開封する際、必要以上に破ってしまったりなど、お困りのこともあるかと思います。お薬にもよりますが、薬局で一包化してお渡しすることができますので、必要があれば、お薬カウンターまでご相談ください。

次に PTP 包装です。PTP とは、英語で Press Through Pack の頭文字をとった略語で、錠剤が収まるように形成したプラスチックの裏側に薄いアルミ等で封をしたもので、現在多くの錠剤（カプセル剤）がこの形態となっています。プラスチック部分を押し出して取り出すことになりますが、その際にアルミの部分まで破りとられてしまい、薬といっしょに飲み込みそうになったこともあるかもしれません。また、PTP 包装を一錠ずつ切り離して保管されている場合、中の薬を取り出さずに飲んでしまう事故も起きていますので、十分注意が必要になります。ヒート包装と同様に、お薬にもよりますが、薬局で一包化してお渡しすることができますので、必要があれば、お薬カウンターまでご相談ください。

なお、PTP 包装の中には、押し出して薬を取り出すのではなく、はがして取り出すものや、他の PTP 包装と比べて強く押し出す必要のあるものもあります。例外的なものは、初めてお薬をお渡しする際に説明させてもらっていますが、気になることがあれば、遠慮なくお薬カウンターまでお申し出ください。

次回、No.13 は、5 月中旬発行の予定です。

医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院 〒854-0081 長崎県諫早市栄田町 38-16

TEL 0957-26-3374（代表）/ FAX 0957-26-0495 担当（薬剤師）平野、岡本